

文化財普及事業「土器づくり講座」

11月23日～25日に土器づくり講座を実施し、20名が参加しました。講師には、土器づくり第一人者の比嘉賀盛先生をお招きし、先生指導の下、作り上げていきました。

比嘉先生は沖縄国際大学を卒業後、沖縄県内で出土する土器の観察を行い、土器の成形方法や焼き方、使用方法などをあらゆる角度から研究してきた方です。

講座初日には、土づくりを行いました。土器用の土は粘土と砂を混ぜて作り合わせていきます。1人、約2kgの粘土を川砂と混ぜ、力いっぱい捏ね上げました。

講座2日目は、成形作業で、先生のお手本の下、土器の成形を行いました。先生には土器の他に、キャラクターの形を模した土笛などを作っていただきました。参加者は、土器を作る方もいれば、植木鉢やキャラクター人形を作るなど思い思いに制作していました。

講座3日目はいよいよ、土器焼きです。土器焼きは2度の焚火を行います。1度目の焚火は、むらなく焼くために必要なもので、地面を熱します。1度目の焚火が終わると、炭をまんべんなく地面に広げ、その炭の上に土器を並べていきます。土器を並べ終わるとその周囲に土器を焼くための木材を手早く置いていきます。これが2度目の焚火となります。土器の周りに置いた木材が、地面に広げた炭の影響でどんどん燃え上がっていきます。あとは火が燃え尽きるまで、土器の焼き上がりを待つだけです。その間に、出てきた炭を使って先生に以前、作成していただいた土器で貝のスープを作り、当時の人々の生活に思いをはせながら、土器が焼き上がるのを待ちました。

今回の土器焼きは、そのほとんどが大きく割れることなくきれいに焼き上がりました。参加者からは「土器づくりだけでなく、土器を使ってみたりして楽しかった」「うまく焼けた」などの声がありました。

令和7年度も土器づくり講座を実施したいと考えていますので、興味がある方はぜひ、恩納村博物館にお問い合わせください。



講師によるお手本



講座の様子



土器成形



焼き上がり



土器で作ったスープ



参加者の皆さん

お問い合わせ：恩納村博物館 ☎982-5112